

6月「クローバーだより」(全3ページ)



*個人情報保護の立場から、今まで、担当事例は、たよりに掲載していませんでしたが、読者の皆さんからのご要望等があり、今月号では、再登校事例をお伝えすることにいたしました。

「約6ヶ月間、不登校だったA君の再登校事例」の分析とレポート

再登校につなぐために、 保護者は、どのように、子どもと関わっていくとよいか？

A君は、今、中2です。

中1の10月くらいから、時々、学校を休むようになり、・・・
11月頃からは、全く学校に行けなくなってしまいました。



ところが、A君は、中2の始業式当日から、再び、登校を始めました。

その後、「学校を休みたい」と言って、何回か、学校を休むことはありましたが、
今では、ほぼ毎日、登校できるようにまでなりました。

約6ヶ月間、不登校だったA君が登校できるようになるまで、
A君と保護者さんとの間には、いったい、どのようなやりとりがあったのでしょうか。
その経緯を、・・・以下に、ふり返ってみることにします。

◆再登校するまでのA君の様子について

本事例をたよりに掲載することについては、保護者さんに了解をいただいています。
以下では、保護者さんから伺ったA君の様子を、時系列でまとめてみました。

<中1の10月頃>

- ・体調をくずして欠席した後、時々、学校を休むようになった。
その後、欠席する日が、少しずつ増えていった。
- ・体調不良を訴えるので、医師の診察を受けたが、わるいところはありません・・・と言われた。

<中1の11月頃～>

- ・全く、学校に行けなくなった。
- ・理由を尋ねてみた。友人関係のことが気になっているようだが、詳しいことは話そうとしない。
- ・夜型の生活になっていった。

<中1の1月頃>

- ・フリースクールの体験入学を試みたが、フリースクールへ通学はしなかった。
- ・「スクールカウンセラーのカウンセリングを受けてみませんか？」
・・・と、学校から連絡があったが、本人は希望しなかった。

<中1の2月頃～>

- ・A君の保護者さんが、カウンセリングルーム「クローバー」に相談へ。(後述)
- ・話し合っ、「これは大事だ」と思ったことは、日々、実行に心がけた。
- ・表情や気持ちなど、「小さな変化」を大切にしながら、子どもと接した。
- ・夜型の生活が、少しずつ改善してきた。



<中2の始業式当日～>

- ・登校を促さなくても、A君は、自ら準備をし、登校をした。うれしかった。驚いた。
- ・第2週、「学校を休みたい」と言って、3日、欠席した。登校は促さず、学校を休ませた。
- ・ゴールデンウィーク明けの2日、学校を休んだが、この時も、登校は促さなかった。
その後は、・・・ほぼ登校を続けている。

◆再登校につなげる保護者の、心に響く「言葉かけ」や「関わり方」とは、・・・？

上述したA君の様子には、保護者の対応について、あまり記述していませんが、実際には、ポイントポイントで、・・・

再登校につなげる保護者さんの、心に響く「言葉かけ」や「働きかけ」がありました。

例えば、<中2の始業式当日～>の

「登校は促さず、学校を休ませた」・・・という対応が、その一つです。

もし、その時、A君に登校を促していたら、今どうなっていたかを考えてみると、・・・その対応の大切さを理解していただけるのでは・・・と思います。

◆「再登校に向け、A君と、どのように向き合っていくとよいと思いますか？」

<中1の2月頃～>、A君の保護者さんが、私のルームへ相談に来られました。

不登校に至るまでのA君の様子をふり振り返りながら、・・・

幼少期から中学校に至るまでの子育てやA君との接し方をふり振り返りながら、・・・

再登校につないでいくには、

「今後、どのような「言葉かけ」や「関わり方」が大切になってくるのか」についていろいろな視点から保護者さんと話し合いました。

その結論は、次の3つに集約されました。

- 1 余計なことは言わない。しない。
- 2 子どもの話をよく聞く。
- 3 親子で楽しい時間、リラックスできる時間をもつ。

「何それ！」・・・と思われた方が、あると思います。

しかし、これら3つのことは、いずれも、心理学的に重要な関わり方になっていると言えます。

例えば、「親子で楽しい時間、リラックスできる時間をもつ」を例にしてお話すると、少し理屈っぽいお話になりますが、・・・

A君のように、安心・安全を十分に感じられるような時間をもつことで、主体的な行動（学校へ登校することも含む）が起こりやすくなります。（注1）（注2）

反対に、**安心・安全を感じるができなくなると、人は、その行動（学校へ登校することも含む）にブレーキがかかってしまいます。**

◆再登校につなぐ適切な関わり方の「本質」は、・・・

A君の保護者さんは、・・・

上述の3つのことを、中2の始業式当日まで、徹底して、継続、実行されました。

再登校へつなぐためには、専門的な関わり方や技法が必要と思われがちですが、A君の事例に見るように

子どものへの適切な関わり方の「本質」は、身近な生活の中にもある、と言ってよいと思う訳です。



文責 西村明倫

参考文献

注1 「思春期とアタッチメント」 林 もも子 2018.5.22 みすず書房

注2 「入門 アタッチメント理論 - 臨床・実践への架け橋」 遠藤利彦 2021.10.26 日本評論社